第十七回　忠順大賞

入賞作品

・応募総数　一三九八首
・久米翠雲先生　選評

小学生の部

豊田市長賞
堤小　六年二組　古賀　清敬
白いゆげ白い息吐き　きね下す
※庭に石うすを置く。家族で役割を決めもちつきをする。つく人が大変、順番に。温かい師走の風景。

豊田市議会議長賞
堤小　六年二組　横川　千暁
弟と仲よく上げるたこ二つ
空の上ではけんかのよう
※仲良し兄弟のたこあげ。仲良くしていた、たこが空でもつれる。「なかよし」と「けんか」が面白い。畑かな、広場かな？

豊田市教育委員会賞
堤小三年一組　加藤　虎太郎
お正月消防出初かんえつ式
ピタッとポーズ銅像みたい
※消防士さんの動きはキビキビとしている。ピタッとポーズが決まり、放水開始。第五句目で決まりだね。

中日新聞社賞
堤小　一年一組　三和　千咲
いとがはるピーンとのびて
手がいたい
わたしとたこでつなひきみたい
※広場かな。北風に乗って、たこ糸がピーンとはる。しんけんなわたしとたこのつなひきだ。手がいたい。でもたのしい。

会長賞　金賞
駒場小二年一組　三吉　海華
お正月楽しみにしてた
おせちりょうり
うーんこれは大人のあじね
※見た目もよく、これはおいしいそうと思ったが、あじはわたしにはあわない。大人のあじね」が、面白い。

会長賞　銀賞
堤小六年三組　丹生谷　杏夏
伝わるよ姉のドキドキ皆同じ
初心者マークの大きな車
※姉が車の免許をとった。初めて家族を乗せての試乗運転。家族みんな乗った。ドキドキ緊張。上の句がいい。

会長賞　銅賞
堤小五年一組　日橋　星姫
冬休み窓の外には雪がふり
何もしないで窓にはり付く
※今年初めての雪。庭の木々や屋根の白。美しいな。家族皆が窓にはり付いて眺めた。面白い。大雪でなくてよかったね。下の句がいい。

優秀賞
駒場小　四年二組　矢田　凛子
家族への感謝の気持
書く宿題
いっぱいあって書き切れないよ
※宿題で家族への感謝の気持ちを作文にまとめよと出た。あれもこれもと感謝の気持ちはいっぱいだ。幸せだね‼

駒場小　三年一組　花井　栞梛
しん年にことしはいけない
はつもうで
じいじはお空でわたしはこたつ
※さく年、おじいちゃんが亡くなった。大好きなじいじ。お空へいっちゃった。はつもうではやめた。さみしいね！

駒場小　五年一組　目谷　紗衣
大かんせい最後の主役
初トーチ
母の一言「成長したね」
※運動会の一大イベントの一つで、キャンプ宿泊研修でよく行われる技でもありますね。大歓声うれしい。母の一言はもっと胸に響いた。

中学・一般の部

豊田市長賞
前林中二年六組　鈴木　花音
夏祭りカランカランと
下駄の音
手には焼きそば空には花火
※昔懐かしい祭り風景。下駄の音が聞こえるようです。下の句がいいですね。絵になる風景。

豊田市議会議長賞
前林中三年二組　浜崎　大輝
何事も慣れてしまえば日常か
マスク越しでも全力笑顔
※上の句は一面では怖いです。マスクなしが非日常。救われるのは下の句の和を保為の努力する作者、すごいね.

豊田市教育委員会賞

前林中二年三組　國料　咲翔

夏の夜闇夜に咲く可憐な華
今宵の魔法線香花火

※ファンタジーな雰囲気の作品。線香花火の美しさ、可憐さをこのような目で見られる、素晴らしい。

中日新聞社賞

刈谷市　長嶌　秀雄

草刈るる見通しの良き土手の道
歩めばかえる十四の冬に

※土手の道の草刈り後の風景は懐かしい。周囲の景色が変わっても、目の前の風景は、直ぐに通いなれた中学生に戻す。思い出の道。

会長賞　金賞

前林中二年五組　滝澤　芽依

一人だけ持ってきていた
ホッカイロ
順にまわして皆あたたまる

※寒い朝、ホッカイロを持参しての登校。寒さが厳しくなった。友達にまわして暖をとる。優しく素晴らしい心です。

会長賞　銀賞

前林中一年二組　石田　峻毅

両親に正直になれず空言(そらごと)を
心の空は晴れのち曇り

※何か照れくさい。僕は子供じゃないぞ。そんな思いが心を占める。しかし、…。毎日が空模様と同じ。下の句がいい。心の揺れがよく分かる。

会長賞　銅賞

前林中三年三組　今枝　あい

コロナ禍で校歌歌わずもう三年
ついに来たのは
ボディパーカッション

※三年間も校歌は聞くだけ。残念。そして先生方が知恵を絞って、今年はボディパーカッション。心に残るよ!!

優秀賞

前林中三年四組　澁谷　祐

駆け足の逃げる夕陽に行軍の
黒い雲らに雷雨の兆し

※前半の「駆け足の逃げる」ユニークで面白い。空をよく観察していなければ分からない様子をうまく詠んでいるのがいい。

前林中一年三組　松本　都

夕暮れの赤く染まった公園に
小さな遊具大きな私

※近所の公園。幼い頃親に連れられてよく来た。久しぶりに公園で見た遊具が小さく見える。下の句で巧みに自分が大きくなったことが表現されている。

前林中一年六組　成瀬　心花

お父さん塾のお迎え来てくれる
あったかいな帰りの会話

※スポーツ、芸能、学習？などの塾。寒い夜は迎えの車がうれしい。父の言葉も温かい。感謝、感謝。素直な読みっぷりがいい。

※無審査

市長賞」授賞歴のある二名の優れた作品を無審査としました。

高岡町　早川寛子

大土手(おおどて)の夜露にぬれし花花の
光りて美し(うま)雑草と言(う)も

※早朝の大土手の景。露をたっぷり含んで光輝いている。雑草と言われる花花。思わず見惚れてしまう。花々」とせず、花花」としたところで、花の一本一本をよく観ている。

駒場町　清水　宣子

太き枝一本枯らし老木は
夏をしのいで生きる選択

※擬人法を使っての詠み。深い味わいがある。それはまた、人の生き方にも通じるものでもある。枝を枯らして生きる。凄い生命力。短歌の流れもいい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第十七回「忠順大賞」に千三百九十八首の作品をいただきました。

久米翠雲先生による最終審査で二十名の入選者が決定し、先生には選評も添えていただきました。「忠順大賞」募集に伴って開催しています「短歌づくり教室」の参加者からの投稿も増え、入選者もおられます。ありがとうございました。

長く続くコロナ禍の中で、友達とのこと、家庭内の風景など日常生活の小さな喜びを、三十一文字で表現された作品の数々。心温まる人と人との繋がりが伝わってくる短歌がとても多かったように思います。

お忙しい中、指導・協力していただいています小・中学校の先生方には感謝しかありません。ありがとうございます。また、地域内外から応募していただいた大勢のかたに感謝致します。

（事務局　川村）